

第10回 掠の実句会 (二〇二二年八月十日) 兼題 「祈」

75. いさよかの梅干して寺しんとあり (澤) 12点

◎雀：土用干しの梅か。奥に人のいる気配。お寺のつつましい暮らしぶりを思いました。

4. パラソルを開けば鳩の飛び立てり (みさこ) 4点

◎雀：情景が浮かんできます。羽ばたきの音が聞こえてくるようです。

143. ゴル街の浸かる西日の中にある (ようい) 3点

◎雀：こうしてみると、都会にも郷愁があるんですね。

5. 教会の椅子の涼しき祈りかな (すみれ) 2点

◎潤一：涼しきと教会の椅子がとても響き合っています。

111. 河骨や母に重たき宿の傘 (りん) 7点

◎雀：旅先での雨の散策。母の老いをいたわる子のまなざしが感じられました。

46. 二寧坂暑し産寧坂暑し (三晴) 8点

◎翠筆：京都の坂。ふたつ並べることで汗がだらだら出るような暑さを表した。

48. ほのぼのと桃の実れる通学路 (さや) 4点

◎雀：おそらく実景でしょうが、桃がよかったですね。邪気を払う果実でもあります。

30. 秋の虹ゝるがきこえるまで祈る (節子) 3点

◎つかさ：もう一度逢いたい切ない祈りが伝わりました。

116. 髪を結ぶ水色のシユシユ秋はじめ (玲子) 3点

◎雀：日常の一コマのスケッチが秋の爽やかさを伝えて来る。弾むような調べがいいです。

17. 人気なき生家に秋の立ちにけり (ぼんだ) 7点

◎紀子(みちこ)：もう人気のない生家にも等しく秋が来たと云う。辺りの景色のしづかさに秋を感じた作者の繊細な感覚を思った。

65. 祈禱書のけふの頁に秋立ちぬ (きさ) 7点

◎としこ：「けふの頁に」が敬虔にしてリアル。季語から受ける静かさも諾えます。

134. 明け暮れの看取りに木槿咲にけり (澤) 6点

◎しつぽな：目の片隅に、毎日咲き散る木槿がある。何のためでもなく、輝かしく。

88. 花芙蓉落ちてセピアとなりにけり (千津子) 4点

◎飄々子：セピアって過去のことかなあ？一瞬なのか？ゆっくりなのか？